

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 8 月 9 日現在

機関番号：62608
 研究種目：若手研究(B)
 研究期間：2014～2016
 課題番号：26770234
 研究課題名(和文) 古代～近世初期筆写史料の情報資源化の研究 小杉榎邨『徴古雑抄』を対象として

 研究課題名(英文) Research on information resourceization of ancient to early modern transcribed materials: Kosugi Sugimura's "Choko Zasho" is targeted

 研究代表者
 丸島 和洋 (Marushima, Kazuhiro)

 国文学研究資料館・研究部・特定研究員

 研究者番号：10599640
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の最大の目的は、国文学研究資料館所蔵『徴古雑抄』190冊の収録文書の目録化である。3年間の調査により、全190冊の収録文書16,219点の仮目録作成を完了した。ただし、まだ重複確認やデータの細かい整理は終わっていない。本研究においては、作成した目録の公開を最終目標としており、これについては個人作業で継続し、完了させる予定である。

第2の目標は、『徴古雑抄』の編纂過程の検討である。このため、収録文書の原本調査を必要に応じて行った。こちらについても、成果をまとめきれてはいないが、基礎データはほぼ取り終えている。完全目録とあわせ、平成29年度中の公開を目指している。

研究成果の概要(英文)：The main objective of this research is cataloging of 190 recorded documents of "Choko Zasho" in National Institute of Japanese Literature. Three years of survey completed the provisional production of 16,219 total 190 records. However, duplication confirmation and fine arrangement of data have not been completed yet. In this research, the final goal is to release the created inventory, which will be continued and completed by individual work. The second goal is to review the compilation process of "Choko Zasho". To fulfill this purpose, we surveyed original documents as necessary. Even here, we are not able to compile the results, but we have almost finished basic data. Together with the complete catalog, we are aiming for disclosure during FY 2017

研究分野：日本中世史

キーワード：歴史資料の情報資源化 徴古雑抄 日本古代史料 日本中世史料 日本近世史料 古文書目録化

1. 研究開始当初の背景

『徴古雑抄』全190冊は、徳島藩から『阿波国志』の編纂を命じられた国学者小杉楳邨(こすぎすぎむら)が、明治時代に全国の資料を書写した一大「写伝史料」(古文書の写真集)である。国文学研究資料館収蔵資料のなかでも、利用頻度が高い。

『徴古雑抄』は、古代から近世初期の古文書・古記録・金石文(考古資料)を書写したもので、収録文書には、既に原本が失われたものも少なくない。

しかしながら、内容目録はおろか、190冊からなる各冊ごとのタイトルすら、極めて大ざっぱな仮目録しか存在しない状況にある。それどころか、徳島藩の命で編纂された経緯を踏まえたものか、旧国立史料館編纂の目録においても、『史料館所蔵史料目録 第4集 阿波国徳島蜂須賀家文書』の附録として概要が載せられている。このため、「蜂須賀家文書」の一部と誤解する向きも少なくない。

以上のような状況にあるため、長期にわたる調査を行わない限り、どのような古文書が書写されているかの把握も困難であった。その上、簿冊によっては紙の束となっており、閲覧時に現状が変更されてしまう恐れもある。古文書の書写状況も、各丁ごとにびっしりと埋め尽くされている冊子が少なくなく、全冊を通覧することに費やす労力と時間は計り知れない。

したがって、『徴古雑抄』の内容細目録の作成と公開を行うことは、同資料の検索を容易なものとし、日本中世史を中心とした研究の進展に大きく寄与できるのではないかと考えた。

2. 研究の目的

(1) 『徴古雑抄』全190冊(正編・続編・附録)に書写されている古文書・古記録・金石文の総目録を作成することが最大の目標である。

作成した内容総目録を公開することで、『徴古雑抄』の閲覧利用を容易にすることができる。その際には、既存史料集への収録の有無や原本の所在についても付記し、小杉楳邨調査時点での文書群の状況についても考える材料を提示したい。

(2) あわせて、『徴古雑抄』の編纂過程、すなわち编者たる小杉楳邨の調査方針・調査方法について考察する。小杉楳邨が『徴古雑抄』編纂に取り組んだのは明治時代だが、江戸時代の段階で、各地で「写伝史料」が編纂されていた。小杉楳邨が、これらの「写伝史料」を参照したのか、あるいは直接原本にあたることを中心としたのか。また当初は『阿波国志』編纂事業としてスタートしたはずが、全国的な古文書収集へと方針を変換した理由はどのようなもので、どのような方針で資料の収集にあたったのかを検討する。

「写伝史料」は、残念ながら書写されている文書をつまみ食いの利用する形で用いられることが多い。しかし「史料」として扱

う以上、その成立過程についての考察は欠かすことができないのではなからうか。

『徴古雑抄』には、特に収集方針が明記されているわけではない。この問題はあくまで可能な範囲にとどまることが予想される。しかしながら、『徴古雑抄』の史料的位置づけを明確にし、かつ「写伝史料」を用いる際にどのような点を留意すべきかを提示できると考える。

3. 研究の方法

(1) アルバイトを2~3名程度雇用し、内容目録の採録を進める。『徴古雑抄』のうち大部を占める阿波国分については、活字化されているため、それを購入して作業の効率化を図る。

(2) 適宜関連書籍の購入や、原本調査を実施し、『徴古雑抄』がどのようにして編纂されたのか、その成立過程の考察を行う。江戸時代、多くの「写伝史料」が作成されており、『徴古雑抄』が各種「写伝史料」の影響を受けているのかを検討する。

また、『徴古雑抄』に書写されている文書は、個々の文書群を書写する形態がとられている。编者である小杉楳邨が、各文書群をどの程度閲覧・書写したのか、現状のまとめりと比較照合作業を進める。

4. 研究成果

(1) 3年間の調査により、全190冊の収録文書16,219点の仮目録作成を完了した。ただし、まだ重複確認やデータの細かい整理は終わっていない。本研究においては、作成した目録の公開を最終目標としており、これについては個人作業で継続し、完了させる予定である。

なお、活字史料集として刊行されている『阿波国徴古雑抄』(日本歴史地理学会、1913年)、『阿波国徴古雑抄続編』(阿波研究叢書刊行会、1958年)は、表題に反し、阿波国分すべてを翻刻しているわけではなく、かつ翻刻の順序も元の冊子とは異なることが明らかとなった。したがって、これら活字本だけを読んでも、『徴古雑抄』のうち阿波国分を通覧したことにはならない。この点は、留意すべき事項である。

(2) 第2の目標は、『徴古雑抄』の編纂過程の検討である。このため、収録文書の原本調査や東京大学史料編纂所における影写本・写真帳の調査、活字史料集の調査を適宜行った。こちらについても、成果をまとめきれてはいないが、基礎データはほぼ取り終えている。完全目録とあわせ、平成29年度中の公開を目指している。

(3) 以上の成果は、当初国文学研究資料館「収蔵歴史アーカイブズデータベース」に掲載することを検討していた。しかし、研究代表者の同館在任中に、この作業を行うことができなかったこと、同データベースは内容再目録の収録を念頭に置いていないことから、別の方法による公開を模索している。

現在検討しているのは、イ) 研究代表者の

個人ウェブページにおける公開、ロ) エクセルデータのDVD-R 配付、ハ) 出版社からの刊行である。ただ、いずれも国文学研究資料館と協議の上、行う必要があると考えている。ロ) については狭い範囲での公開にとどまるという難点があり、ハ) は国文学研究資料館の目録刊行事業との整合性をとる必要がある。

したがって 2017 年度中には公開の目途をつけたいと考えるが、このような事情があるため、翌年以降にずれこむ可能性を残すことをお断りしておく。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 12 件)

丸島和洋、「真田信繁書状の再発見」、『古文書研究』、有、82、2016、132-138

丸島和洋、「大坂の陣と「乱取り」 真田信繁娘阿梅の行方」、『国文研ニューズ』、査読無、44、2016、4-5、https://kokubunken.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=2114&item_no=1&page_id=13&block_id=21

丸島和洋、「大坂夏の陣で討ち死にした真田信繁家臣と信之家臣」、『武田氏研究』、査読有、54、2016、71-72

丸島和洋、「武田信玄・勝頼と真田三代幸綱・信綱から昌幸へ」、『甲斐』、査読無、139、2016、1-16

丸島和洋、「武田・毛利同盟の成立過程と足利義昭の「甲相越三和」調停 すれ違う使者と書状群」、『武田氏研究』、有、53、2016、20-39

丸島和洋、「武田氏から見た今川氏の外交」、『静岡県地域史研究』、無、5、2015
丸島和洋、「織田権力の領域支配再論」、『年報三田中世史研究』、無、22、2015、27-83

丸島和洋、「『八代日記』と地方暦」、『古文書研究』、有、79、2015、114-116

丸島和洋、「真田弁丸の天正一〇年」、『武田氏研究』、有、52、2015、38-42

丸島和洋、「北条・徳川間外交の意思伝達構造」、『国文学研究資料館紀要 アーカイブズ研究篇』、有、11、2015、33-52、https://kokubunken.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=1474&item_no=1&page_id=13&block_id=21

丸島和洋、「戦国大名武田氏の佐久郡支配 内山城代小山田虎満・昌成父子を中心に」、『信濃』、有、66-12、2014、19-38
丸島和洋、「戦国大名武田氏の西上野支配と箕輪城代 内藤昌月宛「在城定書」を中心に」、『地方史研究』、有、369、2014、

1-19

〔学会発表〕(計 4 件)

丸島和洋、「戦国時代研究の進展と大河ドラマ 時代考証の立場から」、『武蔵野大学国文学会大会(招待講演) 2016年11月05日、武蔵野大学(東京都西東京市)』
丸島和洋、「礼紙のついた折紙」、『室町期研究会例会、2016年10月07日、明治大学(東京都千代田区)』

丸島和洋、「敢えて、実名を記す 「二字書」という書札礼と方広寺鐘銘事件」、『戦国史研究会例会、2016年08月13日、日本大学(東京都千代田区)』

丸島和洋、「武田氏から見た今川氏の外交」、『静岡地域史研究会、2014年09月23日、静岡商工会議所会館(静岡県静岡市)』

〔図書〕(計 5 件)

丸島和洋、星海社、『真田信繁の書状を読む』、2016、286

丸島和洋、教育評論社、『戦国大名武田氏の家臣団 信玄・勝頼を支えた家臣たち』、2016、384

丸島和洋、KADOKAWA、『真田一族と家臣団のすべて』、2016、254

丸島和洋、平凡社、『真田四代と信繁』、2016、306

丸島和洋、戎光祥出版、『図説 真田一族』、2016、154

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://kazumaru-takeda.com/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

丸島 和洋 (MARUSHIMA, Kazuhiro)
国文学研究資料館・研究部・特定研究員
研究者番号：10599640

(2)研究分担者 ()

研究者番号：

(3)連携研究者 ()

研究者番号：

(4)研究協力者 ()